



みんなでまなぶ

ぼうさい

せいかつ



もくじ

1. じしんってなあに? ……1
2. 学校たんけん ……2
3. あぶないときどうするの? ……4
4. つう学ろ・こうえんたんけん ……6
5. おうちの人にもきいてみよう ……8
6. みんなでたすけあおう ……10



じしんって

なあに？



じしんとは・・・

じめんがゆれること

じしんによっていえがこわれたり

かじになったりする



じしんのとき・・・

どうしたらいいか

みんなでかんがえよう



ほうさいずきん



がっこう

学校

たんけん



どこにあるか
さがしてみよう

② きょうしつでじしんがきたらどうしたらいいかな？



つくえの下にかくれて
あたまをまもろう



にげるときは
ハンカチを口に！



見つけたものとぼしょ・やくわりをかくておこう

なまえ	あつたぼしょ	やくわり

あぶない時

どうするの？

校てい うさぎごや



きゅう食



うんどう会



かいだん



① こんな時に地しんがきたらどうしたらいいかな？
考えてみよう。

ただしいばんごうを ○ にいれてみよう



- ① つくえの下にもぐる
- ② 頭をまもる
- ③ まん中にあつまる
- ④ あぶないものからはなれる



② ひなんの時はどうするの？



お ○ ○ ○

か ○ ○ ○

し ○ ○ ○ ○

も ○ ○ ○ ○

つ う 学 ろ こ う え ん
た ん け ん



② みちにいるときじしんがきたらどうするの？



② こうえんにいるときじしんがきたらどうするの？





みちでは・・・
 あたまをまもって
 あぶないものから
 はなれよう



こうえんでは・・・



あたまをまもって
 まんなかにあつまろう



見つけたものとぼしょ・やくわりをかいておこう

なまえ	あったぼしょ	やくわり

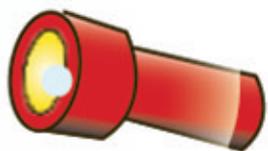
おうちの人も

きいてみよう

おうちの人ときょうりょくして
ひなんぶくろの用いをしよう



かんぱん



かいちゅうでんとう



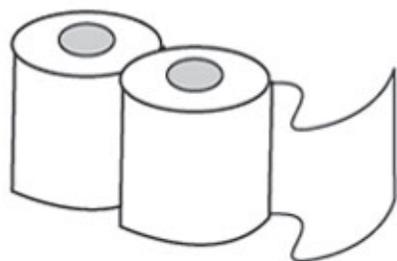
水



くすり



ラジオ



トイレットペーパー



かんでんち



ぐんて

ひとつようなものを書いてみよう



じぶんやかぞくのことを
かいておこう



 じぶんのじょうほう

じゅうしょ	
なまえ	
でんわ	
けつえきがた	

 かぞくのれんらくさき

なまえ	かいしゃ・がっこう	でんわ

 おうちのひととはなればなれになった時に
あつまるところはどこかな？

--

みんなで

たすけあおう

①

左下の
赤いボタンを
おす

きゅうきゅう車をよぶには？

②

119

をダイヤル

③

きゅうきゅうだ
つたえ、目じるしを
おしえる



いらずらにつかわないでね！

ほかにもできることはあるかな？

まず、自分のみをまもる！

こまっている人がいたら

たすけてあげよう。



保護者のみなさまへ

日本は世界有数の地震国です。1995年に起こった阪神・淡路大震災や2004年の新潟中越地震も記憶に新しいことでしょう。さらに近年では東海地震も心配され、国民が防災について考える機会は増えていると言えます。しかしその一方で幼少期の子供たちの防災意識の啓発、防災教育はどうなっているのでしょうか。私は卒業研究においてその実態を探り、遊びの延長で防災について学べる年齢である小学校低学年（1・2年生）における効果的な教育方法を見出し、学校教育において防災についての知識の植え付けをさせるとともに、興味を持たせ、自ら学ぶ動機付けができるツールとしてこの生活科副読本を作成しました。文部科学省の掲げる生活科の目標である『具体的な活動や体験を通して、自分と身近な人々、社会及ぶ自然とかかわりに関心をもち、自分自身や自分の生活について考えさせるとともに、その過程において生活上必要な習慣や技能を身に付けさせ、自立への基礎を養う』ことと、防災について体験を重視しながら学ぶことの共通点に注目し、副読本の内容は、実際に外に出て、観察したり、考えたりしながら防災の知識を体得していくものとなりました。

この防災副読本は学校教育の生活科で扱うこととしましたが、実際の被害を防ぐには、家庭での防災対策も必要不可欠になってきます。そこで、ご家族の方々にもこの副読本を使って、子供が防災について学ぶ手助けをしていただきたいと思います。記載した内容の中に、ご家庭において家族の方の協力が必要になっていく部分がございますので、どうか、お子さんと一緒になって、日頃の防災意識を再確認するためにも、この副読本を利用しての学習にご協力願いたいと思います。

具体的な内容については、次ページより説明してありますので、そちらを参考にしてください。この副読本が家族で家庭の防災を見直すよいきっかけになり、今後の防災対策に役立つことを心から願っております。

日本女子大学 家政学部住居学科 居住環境デザイン専攻
原 梨恵

p. 8～9 おうちの人にもきいてみよう

おうちの人にも きいてみよう

おうちの人ときょうりょくして
ひなぶくろの用いしよう






かんぱん かいちゅうでんとう 水 くすり






ラジオ トイレットペーパー かんでんち ぐんて

ひつようなものを書いてみよう



じぶんやかぞくのこことを かいておこう



じぶんのじょうほう

じょうしょ	
なまえ	
でんわ	
けつえきがた	

かぞくのれんらくさき

なまえ	かいしゃ・がっこう	でんわ

おうちのひととはなればなれになった時に
あつまるところはどこかな？

この項目では、家の中で子供たちが自分の役割を見つけることを目的とし、一例として非常持ち出し袋の準備を課題としています。今まで学んできた防災の知識を活用し、必要なものを考え、用意をすることで、防災に対する意識を高めるとともに、自立の心を芽生えさせることにつながればと考えています。また、家での防災対策を探したり、いざというときに家族みんながあわてずに行動できるよう、話し合いをしたりすることで、子供たちの防災意識の向上をはかることを目的としています。また、お子さんと一緒に防災について考えることで、日頃からの対策や、緊急時の対処について見直す機会になればと考えています。

★避難袋の用意★

お子さんと協力して非常持ち出し袋の用意をしてください。すでに準備のあるご家庭では、内容物の確認、必要なものの再検討などを行うと良いでしょう。また、そのほかに災害のときの家族それぞれの役割を決めておくことも大切です。

★非常持ち出し品の例★

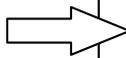
- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ヘルメット,防災頭巾 ・毛布,寝袋 ・タオル,石鹸 ・マッチ,ろうそく,ライター ・軍手 ・懐中電灯 ・ラジオ ・救急箱,常備薬 ・飲料水,食料 ・ナイフ,缶切り ・着替え | <ul style="list-style-type: none"> ・ちり紙 ・現金 ・ロープ |
|---|---|

あると便利なもの

- ・ウェットティッシュ
 - ・ラップ
 - ・トイレットペーパー
 - ・マスク
 - ・ビニール袋
 - ・テント
 - ・笛

など

非常食・・・3 日分
飲料水・・・一人一日 3 リットル×3 日分



★子供の役割の例★

- ・火を消す
- ・出入り口の確保をする
- ・非常持ち出し袋の確認を行う など

家庭での防災対策の例

食器棚

- ①重いものは下へ収納
- ②L型金具で壁に固定
- ③棚の中にネルなどを敷いて滑り止め
- ④開き戸式の戸棚には止め金具
- ⑤棚にサンをつけて食器の飛び出しを防止

本棚

- ①L型金具で壁に固定
- ②重い本は下の段へ
- ③本は隙間なく並べる
- ④本棚の上に物を置かない

- 火元付近に燃えやすいものは置かない
- 棚にガラス製品を置くのは極力避ける
- 窓ガラスにはガラス飛散防止フィルムを貼る、夜間はカーテンを引く
- ピアノの下にはもぐりこまない
- テレビは家具の上に置かない
- テレビの上に水ものは置かない
- 玄関は脱出口になるので日頃から整理整頓を
- 寝室には背が低くて倒れにくい家具を

★連絡先の確認★

お子さんが一人のときでも自分の名前、住所、電話番号、血液型がわかるよう、書き込みを手伝ってあげてください。また、緊急時の家族の集合場所を決め、家族の勤め先や学校の連絡先を教えてください。非常事態の時のために事前に家族で話し合う機会を持ちましょう。

★家の中で地震が起こったときの対処方法★

- 揺れを感じたら、テーブルの下に隠れ、身を守る。手近の座布団などで頭を保護する
- ガラスの破片などでけがをするので裸足で歩き回らない。
- 火の始末はすみやかに。立っていることが困難な場合は揺れがおさまるまで身の安全を確保して次に消火する。
- 乳幼児や病人、お年寄りなど災害弱者の安全確保を。子供には親の言うことをよく聞かせ、行動を指示する。
- ドアや窓を開けて避難口を確保する。
- 避難にエレベーターは絶対使わない。炎と煙に巻き込まれないように階段を使って避難する。



みんなでまなぶ ぼうさい せいかつ

(小学校1・2年生用)

平成17年2月17日 制作

編集 日本女子大学 石川研究室

原 梨恵

おん
年
年

くみ
組
組

なまえ
名前